

APRIL APRIL

7・20

点でなく面の交流をやりたい。
実現迫る日本ベルギー現代美術交流展、
『ASAKUSAE』

日本、ベルギーの現代美術作家20数名が主体となり、『作家どうしが能動的にかかわれる展覧会』をめざし、4月に日本で、9月にベルギーで交流展を行なう予定だ。これは、過去2回、ロンドン、モスクワの大学との交流展を行なったベルギーのサン・リック大学教授テレーズ・ショット女史と美術作家ドゥラティン＝ジャン・ミッシェル氏が1989年5月～7月にかけて、美術大学視察に来日した折に、ギャラリー・サージなどにおいてシンポジウムを行なった。その中で行なわれた作家との活発な討議を経て実現するもの。美術だけではなく、両国の文化・歴史・民俗との交流をめざす、という趣旨からこれまでの美術交流展と異なるさまざまな試みが見られている。1つは、展示会場を従来の美術館やギャラリーといった“美術を見る”ための空間以外に求めた点で、日本側の会場は東京浅草にある廃校(旧金竜小学校校舎)、ベルギーではサンカントネル公園内の柱廊が予定されている。日本側の実行委員代表の酒井信一氏(ギャラリー・サージ、

八百板力の新作のためのドローイング



ディレクター)は、「旧金竜小学校校舎は、人口流失が続く都心に位置するためにかつて千人近くいた生徒が今や数百人になって、近くに新校舎が建てられ一部を教育研究所が活用している以外は、使用されないままだった。ここには首都東京がかかえるコンテンポラリーな社会問題がある。現代美術は常に社会問題との接点をリアルタイムにもち続けることが重要であり、そこに表現者＝発信者の問題を持ちこみかけた。」と語った。そして、もう1つは両国の作家がそれぞれ現地に赴いて、素材を調達し、同一の場所で制作するという点だ。「その中で行なわれる作家どうしの生のコミュニケーションは、理解するまではいかなくとも、かなり刺激的だと思います。そこには点ではなく、面の交流が可能ではないか。」と酒井氏は語った。失われようとする廃校を舞台とした現代美術作家の交流展は、ある意味で今という時代を象徴しているかもしれない。

[日本・ベルギー現代美術交流展] Asakusae 制作-3月23日～4月6日 AM9:00～PM5:00
ワークショップ(制作の一般公開)-3月31日10:00 am～12:00pm、1:00pm～3:00pm
展示-4月7日～4月20日旧金竜小学校校舎内(東京都台東区西浅草3丁目25番地)
参加作家-(日本側)有吉徹&直子、伊東七男、川島敦子、土屋穰、出口道吉、平川典俊、松枝秀晴、水留周二、八百板力、山本伸樹
(ベルギー)テレーズ・ショット、シュアン・ドゥルトレモン、イブリーヌ・デュブユック、モニカ&ベルナル・ピンケール、スルール、ミッシェル・スメ、ベルナル・ヴィレール、カテリー・ワルモー、
主催 国際現代美術交流展委員会 朝日新聞社
後援 国際交流基金 ベルギー大使館ほか
協賛 トヨタ自動車 全日本空輸 ほか
*レクチャー、シンポジウムあり、問合せはギャラリー・サージ TEL03-3861-2581まで。



シュアン・ドゥルトレモンの作品



昭和3年、大震災の復興事業として建てられた歴史ある校舎